

今回検出した遺構は、いずれも平安時代（九世紀後半）のもので、掘立柱建物（一五棟以上、灌漑用水路・畝状小溝などの溝状遺構三

市のこの付近には、かつて濁
や小河川が点在していたと
思われ、本遺跡は河川沿い
に形成された自然堤防上に
ある。

帯のほぼ中央に位置する。標高〇m地帯のこの付近には、かつて潟

- 1 所在地 新潟市江南区亀田早通字川根
- 2 調査期間 二〇〇六年（平18）七月～十二月
- 3 発掘機関 新潟市教育委員会（新潟市埋蔵文化財センター）
- 4 調査担当者 渡邊ますみ
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代後期・奈良時代・平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

新潟・駒首潟遺跡

こまくびがた

九九条、井戸二一基、埋葬施設と思われるものを含む土坑一五四基
鍛冶炉、船着場と想定されるテラス状遺構やステップなどの河川際
の施設がみられる。

木簡は、昭和五〇年代まで存在した潟に重なるようにして検出された旧河川から一点出土した。この河川は、水面交通・物流に重要な役割を果たしていたと考えられるが、墨書土器や木製祭祀具も出土しており、祭祀行為の場としての利用も推測される。

- 8 木簡の釈文・内容

(1)

[illegible]

有 為 為

(420) × 64 × 5 019

縦に三片に割れている。下端と左右両辺は原形をとどめるが、上端は裏面から刃物によつて割られ欠損している。表裏両面に文字が書かれているが、裏面は墨痕が薄く解読が困難である。

内容は習書であり、「仏」「衆」などの文字が繰り返し書かれていることから、仏典をテキストとした可能性がある。表面の「足羽臣」は、越前国足羽郡を本拠とする地方豪族のウジ名である。越後

国には沼垂郡に足羽郷があり、城柵の設置に伴う越前国足羽郡からの柵戸の移配に因む郷名とされている。本遺跡は沼垂郡に南接する蒲原郡に属すると考えられている。蒲原郡以南では、長岡市（旧和島村）八幡林遺跡から「能等（＝能登） 豊万呂」〔羽郡カ〕「射水臣」などと記された木簡が出土しており（本誌第一五・一六号）、北陸からの移民が沼垂郡以外にも配されていたことがうかがえる。

（渡邊ますみ、相沢 央〈新潟市歴史文化課〉）

